

第1回米の将来価格に関する実務者勉強会の概要

日時：令和5年8月2日（水）10:00～12:00

場所：農林水産省大臣官房新事業・食品産業部会議室

1-1. 農水省からの説明（米の将来価格等について）

資料2に基づき、将来価格の発見とそのメリットについて説明し、①将来価格の動向を把握することの有用性、②将来価格を発見するための方法を当座の論点として提示した。

1-2. 意見交換（将来価格の動向を把握することの有用性）

- 土地を借りて比較的高い地代を払っているので、米の価格に敏感。将来価格がわかれば規模拡大をするかの検討材料になる。【生産者委員】
- 将来価格の前提条件として、どのくらい先の価格なのか、価格は固定されるものなのか或いは変動するのかを考えていかなければならない。【集荷業者委員】
- 持続できる農業を行うためにも、将来価格がわかることは有用。【生産者委員】
- 将来価格がわかれば生産する上で安心。肥料価格など生産コストの上昇を反映した将来価格が決まることが大切。また、米価が下がりそうなときは、経営安定化の観点から麦や大豆にシフトすることもあり、将来価格がわかることは極めて重要。【生産者委員】
- 産地も需要者も数量・価格が安定する取引を求めているが、現状の米価水準は生産費をまかなえておらず、営農継続が可能な水準となっていない。再生産可能でかつ正確な将来価格が把握できるならば、営農や取引の安定に有用と考える。【集荷業者委員】
- 弊社のお弁当やおにぎりを製造しているグループ会社では、3か月後の商品設計・開発をしているので先の価格が見えているとやり易い。また、以前、先物市場があったときは4月に出来秋の価格がわかり、調達の参考にしていた。【卸売業者委員】
- 政策や年産による価格変動があり事前に将来価格を判断するのは難しいため、現状、事前契約では数量のみは決めて、価格は出来秋に決めるということがほとんど。【卸売業者委員】
- 立場によって価格の見方は変わる。現物市場では、3ヶ月先の価格がいくらなのか、本当にものが手当てできるのかわからないが、先物市場であれば、そのようなことを気にせずにできる。【卸売業者委員】
- 複数年契約は有用であるが、価格を決める際は、お互いに歩み寄ることが大切。再生産可能であることも大事だが、一方で、どれだけ経営努力をしているか、又、お米に付加価値がついているのか等も見極める判断材料となる。【実需者委員】

○立場が違えば、適正な価格水準も異なり、買う側としては適価で買いたい。単一銘柄では調達が困難なので、ブレンド米を中心に扱っているが、価格だけではない消費者のニーズ、例えば「環境に配慮した米が欲しい」、「地産地消したい」にも応えようとしている。【実需者委員】

1-3. 意見交換（将来価格を発見するための方法）

- 価格固定した複数年契約における課題は、相場との関係で損得が発生し、納得感を損なうこと。相場が安定していれば、安定した価格で契約がされていくので、需給が安定するということが重要ではないか。【集荷業者委員】
- 将来価格を考えるには、需要と供給の双方の事情を踏まえることが重要。特に米は、消費量が毎年10万t減っている中で、生産者においては再生産価格が目安となる一方、実需者においては消費者から受け入れられる価格である必要があり、これらの需給の状況が総合的に把握されることで、将来価格が発見されるようになると思う。ただ、例えば、誰かが意図的に米の流通を止めることで、価格が上昇することも往々に起こり得る。【生産者委員】
- 再生産価格や持続可能性も大事だが、消費が減れば元も子もなくなる。価格をある程度固定化するとか、相対価格をベースに数量により、スケールメリットのある価格とするとか、工夫をしながら供給側と需要側が協調して考えていくことが重要。【実需者委員】
- 農業者の立場でいうと、価格が見える化されることで、主食を作るのか、転作で違うものを作るのかといった生産ポジションの決定をスムーズに行うことができるようになる可能性があると思う。【生産者委員】
- 相対取引の長期的な価格の動向を見ると、在庫量が200万tを切ったときに価格が上昇する傾向がある。需要曲線は反比例的に表されるが、将来価格もどのような価格の動きをするのか注視する必要がある。また、再生産可能な価格などの価格基準をベースに将来価格を考えなければいけないと思う。【集荷業者委員】
- 生産者が計画的に生産できるようにするためには複数年契約に取り組んでいくことが大事。ただ、価格を上げ過ぎると消費が減り、米の関係者にとってもマイナスになる。だから、お互いにコストを抑えて再生産価格を下げる方法を考え、実需者も価格を見極める努力が必要。【実需者委員】

2-1. 基調講演1（米の現物市場について）

資料3に基づき、折笠臨時委員より、売り手が設定した最低落札価格を基礎に、競りで価格が決まるなどの市場設計のほか、取引データ等から価格指標を分析し、公表する取組について説明。

資料4に基づき、佛田臨時委員より、環境対策への取組やGAP取得など農業者によるコンプライアンスやガバナンスの向上への取組等を適切に評価するための仕組みについて説明。

2-2. 基調講演 1 での質疑

(問) 佛田臨時委員の説明にあった“GAP”とはグローバル GAP か JGAP か。【実需者委員】

(答) グローバル GAP、ASIAGAP、JGAP、それから県がやっている県 GAP も含めて全て評価する。ただし、GAP でもレベルが違うので、評価に格差が必要。【佛田臨時委員】

(問) 環境に対する配慮の志向が消費者にも出てきているので、こういう区分をしていただけると買いやすいし、優先的に買っていかうという動きにもなってくると思う。生産者の方々が GAP に対する考え方を持っているがわかると、我々も買い易くなると思う。【実需者委員】

(答) GAP については、グローバル GAP、ASIAGAP、JGAP は一定の水準でほとんど差がないが、都道府県の GAP については差があったりもするので、そういうことも含めて評価したり、取組年数なども評価対象にする必要があるかなと思っている。【佛田臨時委員】

3-1. 基調講演 2（麦の先物取引について）

資料 5 に基づき、三柳臨時委員より、先物取引の概要についての説明の後、米国での小麦先物市場の概要や商社の小麦先物市場の活用事例について紹介。また、先物取引は、将来価格の把握のために重要であり、価格変動のリスクヘッジとしても活用されていると説明。

3-2. 基調講演 2 での質疑

(問) 先物市場に年金ファンドやその他金融機関も参加しているということだが、先物市場では普通のことなのか。【集荷業者委員】

(答) 普通のこと。市場が賑わうためには、生産者と需要家だけでなく、多くの参加者によって取引がされる必要。実際、アメリカでは年金ファンド等の参入を促進。先物市場の取引量が全体の小麦生産量を大きく上回っていることから明らかなように、金融機関や AI を活用した高頻度取引をしている人など、いわゆる当事者以外の人が多く売買参加しているのが実態。【三柳臨時委員】

(問) 資料 10 ページは、先物での買い玉が値上がりにより利益を出た場合であるが、三井物産が利益を得た分、誰かが損しているのか、もし損しているなら誰が損しているのか。また、見込みが外れ、値下がりした場合は損失が生じたのか。つまり、読みが当たったから利益が出たということか。【集荷業者委員】

(答) 一点目。先物での利益に対当する損失が誰にどれだけ帰属しているのかは、先物市場での取引である以上、わからない。二点目。見込みが外れた場合には、市場で先物を売るが結果的に損失が生じる場合がある。先物の買いはあくまでヘッジ目的ではあるが、この事例の場合、当初の見込み通り相場が上昇し、先物に於いても利益が出たということになる。【三柳臨時委員】

(問)小麦の先物市場と現物市場との間に関係性はあるか。【佛田臨時委員】

(答)需給をベースに基本的には今の現物価格と先物価格はリンクしていると思うが、例えばウクライナ侵攻などのイベントが起きた場合は、投機筋機関が先物が上がることを見込んで大量の買いを入れてくるので、現物価格が先物価格と全くかけ離れてしまう。つまり、相対的に先物がかかなり高くなって現物が安くなる。【三柳臨時委員】

(問)先物が上昇局面ではリンクが外れるという話だが、先物が急速な下降局面だと現物がリンクして引きずられることが考えられるか。【佛田臨時委員】

(答)考えられる。例えばアメリカの農務省が発表するアメリカの新穀の小麦の生産量が、事前に市場が予測していた生産量より多いと、供給が増えることになるので先物市場が下落しやすい。ただ、現物はその時にすぐに下落するわけではないので先物につられて現物が落ちてくることになる。【三柳臨時委員】

4. 全体を通じて

(問)将来価格の動向を把握することは有用か否かということについては、ほとんどの委員が有用と考えているという印象を持った。将来価格を発見するための方法については、次回以降で具体的に議論していくということか。個人的には、先物取引が方法として活用できると考えているが、他にあるか。【集荷業者委員】

(答)将来価格を発見するための方法として先物価格があるというのは御指摘のとおり。しかし、それだけではなく、例えば現物市場で、先渡取引が行われるようになれば、その市場で形成される価格も将来価格になり得るし、事前契約の相対取引で決まった価格も将来価格であると言える。将来価格を発見する様々な方法から何を選んでいけば良いかということについて、次回以降、勉強していただけるように準備したい。【事務局】